

	<p>護の観点から重要な事柄であると事前にオリエンテーションする。 情報の書き写し時の匿名処理の方法を具体的に指導する。</p> <p>②実施後：慌てず、学生自身の行動経路をともに振り返り、メモ帳を探す。また、同時にメモ帳の置き忘れた時の状況（時間的切迫、確認をしなかった）も振り返る。</p>
<p>典型事例 1</p>	<p>【事例】 学生E子は、病室で受け持ち患者のバイタルサインズを測定し、自分のメモ帳に記録した。その後、患者としばらくおしゃべりをしてナースステーションに戻り、メモ帳をなくしたことに気づいた。メモ帳は、病室の床頭台の上にあった。</p> <p>学生：あなたは、どんなことに注意しようと思いますか？ 考えられるリスクはどんなことですか？</p> <p>ヒヤリ・ハット事例から学びましょう。</p> <p>1) 病室に情報用紙を置き忘れた。 2) ナースステーションにメモ帳を置き忘れた、落とした。 3) 病院内図書館でメモ帳を落とした。</p> <p>→ メモ帳の中には、受け持ち患者さんを特定する情報を書いていませんか？ 個人情報、匿名化して記入しておきましょう。万が一、紛失した場合にも患者情報は保護可能です。 例：氏名：中○△子、入院年月日：2006－X年12－Y月、病棟：*</p> <p>→ メモ帳を使用した後には、必ずポケットに収納しましょう。 メモ帳はポケットサイズのものを使用し、記録用紙などは持ち歩かないようにしましょう。</p> <p>→ 時間がなく慌てているときや、ほっとしたときこそ、忘れ物が発生します。病室、ナースステーション、カンファレンスルームなど、席を立つときには、必ず忘れ物がないか確認する習慣をつけましょう。</p>

学生の看護学実習におけるヒヤリ・ハット体験発生の構造

大項目	説明同意
中項目	その他
小項目	患者の離院
記載事例数	3件
患者の心身状況、疾患の特徴	・患者平均年齢：不明
	・老年・精神疾患 2件 66.7%
	・その他 1件 33.3%
発生状況の特徴	・発生時間：不明
	・学年：不明
	・最多実習日数：不明
	・最多実習の種類：老年看護学実習 1件 33.3%
	精神看護学実習 1件 33.3%
・最多発生場所：不明	
学生の予見・予測的思考の特徴	不明
実施中の学生の思考の特徴・多重課題の存在	不明
学生の事後の振り返り	不明
典型事例1	【事例】看護学生Aは、精神病院で実習している。閉鎖病棟で、鍵を掛けたつもりがかかっておらず、Bさんが入り口から出ようとして離院しそうになった。
	学生：あなたは、どんなことに注意しようと思いますか？ 考えられるリスクはどんなことですか？
	ヒヤリ・ハット事例から学びましょう。 → 鍵の必要性をどのように考えますか。人権保護と危険防止のバランスの中で患者さん自身の受けとめ方、医療者との間でどのような了解がなされていたのでしょうか。 → ただ鍵をかければ済む問題ではありません。患者さんが離院した場合に生じるリスクはどのようなことでしょうか。

14. その他

学生の看護学実習におけるヒヤリ・ハット体験発生の構造

大項目	その他
中項目	その他
小項目	胸腔ドレーンのチューブにつまずいてテープ固定が剥がれ、脱気しそうになった
記載事例数	1件
患者の心身状況、疾患の特徴	・患者年齢：72歳 ・がん、ターミナル期、意識レベル低下、臥床状態、医療機器の使用
発生状況の特徴	・実習の種類：基礎看護学実習 1件 100.0% ・発生場所：病室 1件 100.0%
学生の予見・予測的思考の特徴	・危険を予測し配慮して行動したつもりが、十分ではなかった。 1件 100.0%
実施中の学生の思考の特徴・多重課題の存在	・一つの行為に集中していた。 1件 100.0% ・指導者をまっていたが来てもらえず、焦って実施した。 1件 100.0%
学生の事後の振り返り	・すぐに教員や指導者に報告・相談すればよかった。 1件 100.0% ・確実に確認すればよかった。 1件 100.0%
典型事例	<p>【事例】 学生Aは、胸腔ドレーン（左側）、尿道留置カテーテル、腹腔ドレーン（右側）を挿入している患者Bさんを受け持っていた。包交の見学時に、胸腔ドレーンが挿入されている左側に立って見学をした。病室が狭かったため、スタッフがベッドを動かしてくれた。包交見学後、観察内容を確認しようと看護師を追いかけようと焦った。その時、胸腔ドレーンが挿入側に立っていたことを忘れ、ドレーンにつまずいた。医師が確認したところ、挿入部の固定テープは剥がれていたが、胸腔ドレーンの挿入位置は変化なく、事なきをえた。</p> <p>1. 患者さんに挿入されているチューブはどこにありますか？何のために挿入されていますか？</p> <p>2. 観察内容を確認することは重要ですが、包交後には、まず患者さんの寝衣やベッド環境を整えてから、次の行動に移りましょう。</p> <p>3. 胸腔ドレーンが抜けた場合のリスクはどんなことですか？</p>

学生の看護学実習におけるヒヤリ・ハット体験発生 の構造

大項目	その他	
中項目	その他	
小項目	経管栄養のチューブを気管内に挿入して、栄養を注入した	
記載事例数	1 件	
患者の心身状況、疾患の特徴	・ 患者年齢：70歳 ・ 意識レベル低下、臥床状態、医療機器の使用	
発生状況の特徴	・ 発生場所：病室	1 件 100.0%
学生の予見・予測的思考の特徴	・ 危険の予測を全くしていない。	1 件 100.0%
実施中の学生の思考の特徴・多重課題の存在	・ 患者の情報・状態を把握していなかった。	1 件 100.0%
	・ 患者の状態を予測できていなかった。	1 件 100.0%
	・ 自分の知識、技術があやふやだった。	1 件 100.0%
学生の事後の振り返り	・ すぐに教員や指導者に報告・相談すればよかった。	1 件 100.0%
	・ 自分の行動・感情の振り返りを行った。	1 件 100.0%
	・ ヒヤリハットレポートを記載した。	1 件 100.0%
典型事例	<p>【事例】 学生 A は、部屋持ち看護師 B とともに経管栄養チューブを挿入した。看護師 B は、挿入後胃内に空気を入れ、音を確認し、その後口腔内吸引を実施した。その後看護師 B と学生は、栄養剤を注入した。5 分後、人工呼吸器のアラームが鳴り、他の看護師が駆けつけると、患者の気管内に栄養剤が注入されていることが発見された。</p>	
	<p>1. 経管栄養チューブが胃内に挿入されているかどうか確認する方法は、他にありませんか。</p> <p>2. 栄養剤注入前には微温湯を注入し、呼吸状態などバイタルサインズの変化を確認しましょう。</p> <p>3. 経管栄養チューブが気管内に挿入され、栄養剤が注入された場合に発生するリスクはどんなことですか？</p>	

学生の看護学実習におけるヒヤリ・ハット体験発生の構造

大項目	その他
中項目	その他
小項目	自分自身が感染症を発症しているのに実習を継続し、受け持ち患者等の感染リスクを高めてしまった
記載事例数	1件
患者の心身状況、疾患の特徴	・患者年齢：79歳
発生状況の特徴	不明
学生の予見・予測的思考の特徴	・何となく危険を感じていても判断が出来なかった。 1件 100.0%
実施中の学生の思考の特徴・多重課題の存在	・実習場・学習上のスケジュールによる切迫感と患者に必要な援助との優先順位がつけられなかったために生じた 1件 100.0%
学生の事後の振り返り	・すぐに教員や指導者に報告・相談すればよかった。 1件 100.0%
典型事例	<p>【事例】 学生Aは、実習中に毎晩高熱となり、扁桃腺もはれ、解熱剤を服用しながら実習を行っていた。臨床指導者にはそのことを話していなかった。解熱剤を内服していたためか、発汗が激しく、自分の様子を患者さんや指導者に気付かれるのではないかと焦る。無理してでも参加したいと思う反面、患者さんにうつしてしまったらどうしようかと毎日ヒヤリヒヤリしながら実施している。</p> <p>1. ケアを提供するあなた自身の健康を第一に考えましょう。心身ともに健康でないと、実習に集中しにくくなります。今は、どうですか？</p> <p>2. あなた自身が感染源となり、患者さんやスタッフ、他の学生などに感染を広げるリスクがあります。あなた自身だけの問題ではなくなる可能性があります。その点について、どうでしょうか？</p>